

其のまま地口・猫飼好五十三疋

歌川国芳の代表作である本作品は、東海道五十三次に登場する宿場を、猫に関するダジャレに置き換えた大判三枚からなる戯画です。

「地口」とはダジャレの一種であり、有名な言葉やフレーズをもじったもの、ただ単に韻をそろえたもの、言葉尻に同音異義語をつなげたものなどいくつかのパターンがあります。なお、当作品では東海道の始点である江戸・日本橋と終点である京・三條大橋を加えた計五十五図が示されています。



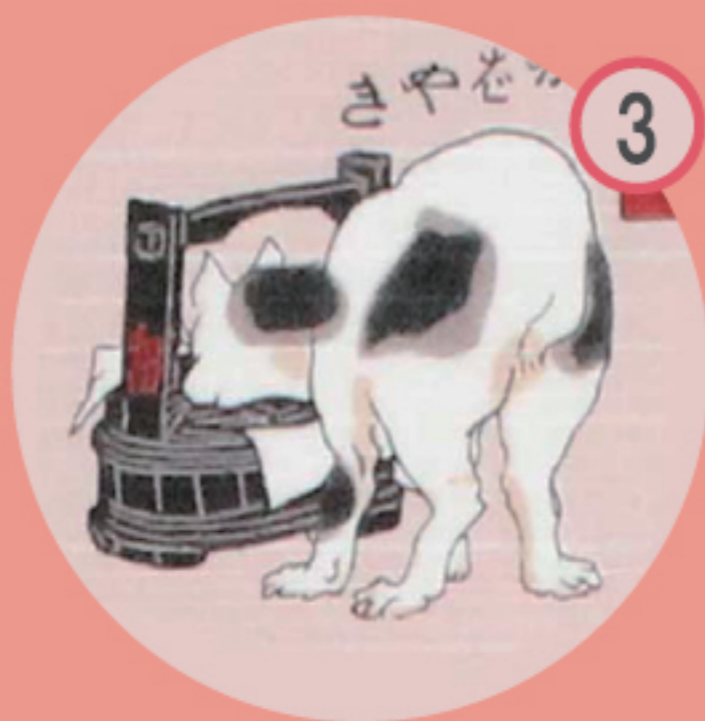
神奈川(かながわ)

→かぐかハ
(竹の皮をかいでみる)



川崎(かわさき)

→かばやき
(蒲焼の匂いが気になる)



品川(しながわ)

→白かを
(シロ猫の顔)



日本橋(にほんばし)

→二本だし
(二本の鰹節を盗み食い)



平塚(ひらつか)

→そだつか
(子猫は育つかな)



藤沢(ふじさわ)

→ぶちさば
(ブチ猫とサバ)



戸塚(とつか)

→はつか
(ハツカネズミ発見)



程ヶ谷(ほどがや)

→のどかい
(喉がかゆい)



三島(みしま)

→三毛魔
(三毛猫が猫又に魔物化)



箱根(はこね)

→へこね
(凹寝。気落ちしている)



小田原(おだわら)

→むだどら
(ネズミに走らされたドラ)



大磯(おおいそ)

→おもいぞ(とても重い)



蒲原(かんばら)

→てんぷら
(天麩羅に手を出すか)



吉原(よしわら)

→ぶちはら
(ブチ模様の腹)



原(はら)

→どら(ドラ猫)



沼津(ぬまづ)

→なまず
(ナマズを見つめる)



府中(ふちゅう)

→むちゅう
(さかなに夢中)



江尻(えじり)

→かじり
(かつお節を丸かじり)



奥津(おきつ)

→おきず
(起きず。目覚めない)



由井(ゆい)

→たい(大きなタイ)



嶋田(しまだ)

→なまだ(生だ。生魚)



藤枝(ふじえだ)

→ぶちへた
(ブチ猫がからかわれる)



岡部(おかべ)

→あかげ(赤毛の猫)



鞠子(まりこ)

→はりこ
(民芸品、張り子の猫)



袋井(ふくろい)

→ふくろい
(袋に頭をつっこむ)



掛川(かけがわ)

→ぼけがを
(化け猫の顔)



日坂(にっさか)

→くったか
(食ったか)



金谷(かなや)

→たまや
(玉のように太っている)



荒井(あらい)

→あらい(顔洗)



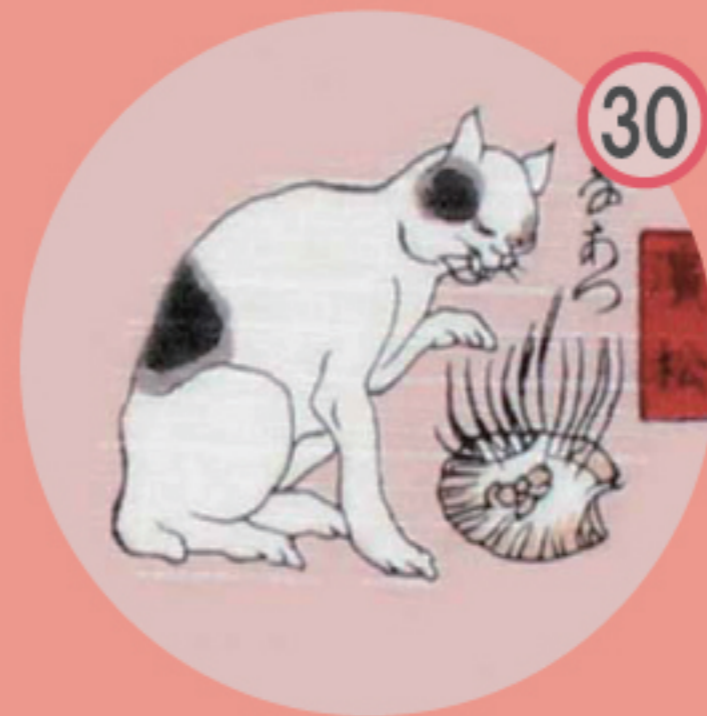
舞阪(まいさか)

→だいたか(抱いたか)



浜松(はままつ)

→はなあつ(鼻が熱い)



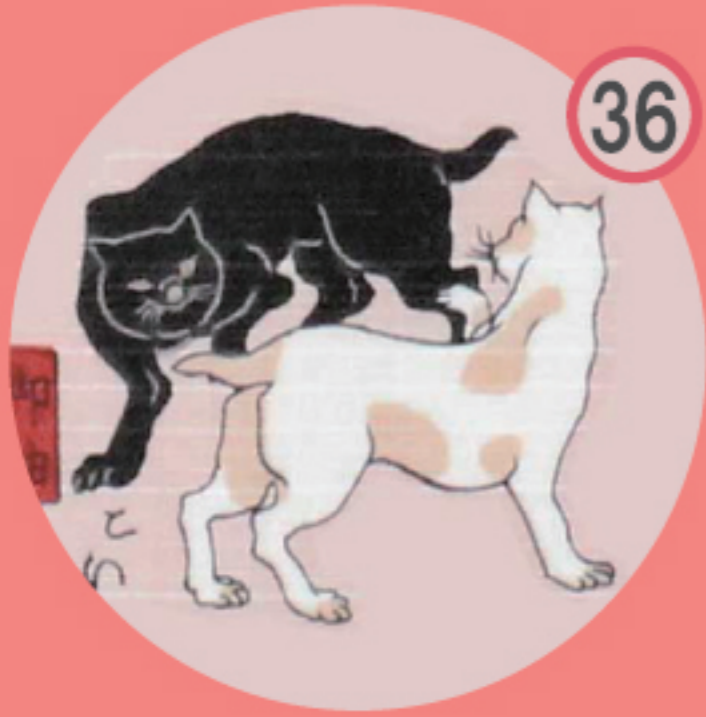
見附(みつけ)

→ねつき
(寝つきがよい)



御油(ごゆ)

→こい
(喧嘩、かかってこい)



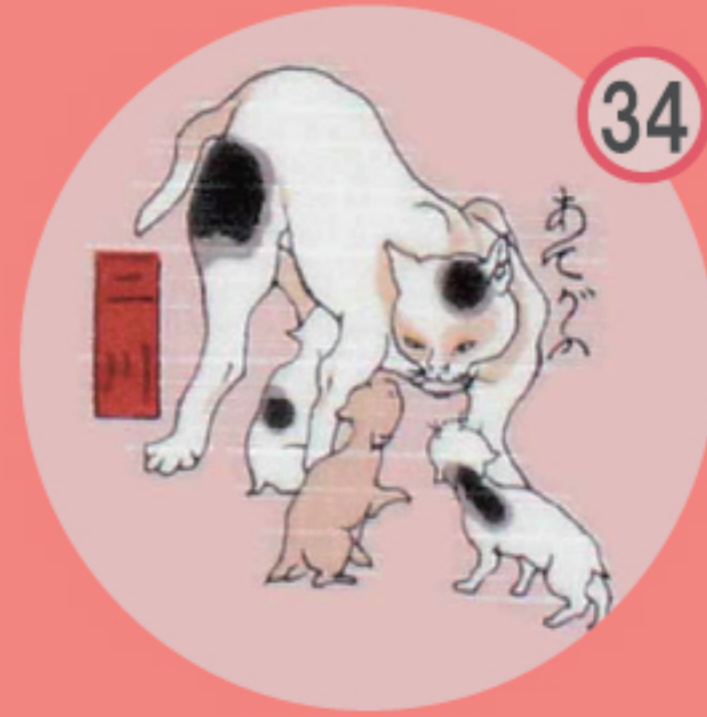
吉田(よしだ)

→おきた(起きた)



二川(ふたがわ)

→あてがふ
(子猫に乳をあてがう)



白須賀(しらすか)

→じゃらすか
(子猫をじゃらす)



池鯉鮒(ちりゅう)

→きりやう
(器量のよい美形の猫)



岡崎(おかざき)

→おがさけ
(尾が裂け、猫又に変化)



藤川(ふじかわ)

→ぶちかご
(ブチ猫と籠)



赤坂(あかさか)

→あたまか
(メザシの頭にごっかり)



四日市(よっかいち)

→よったぶち
(寄り集まるブチ猫)



桑名(くわな)

→くふな
(食うな。おあずけ)



宮(みや)

→おや
(親猫と子猫)



鳴海(なるみ)

→かるみ
(軽い身のこなし)



関(せき)

→かき(牡蠣を食べる猫)



亀山(かめやま)

→ばけあま(化けた尼)



庄野(しょうの)

→かふの
(飼ってくれるの?)



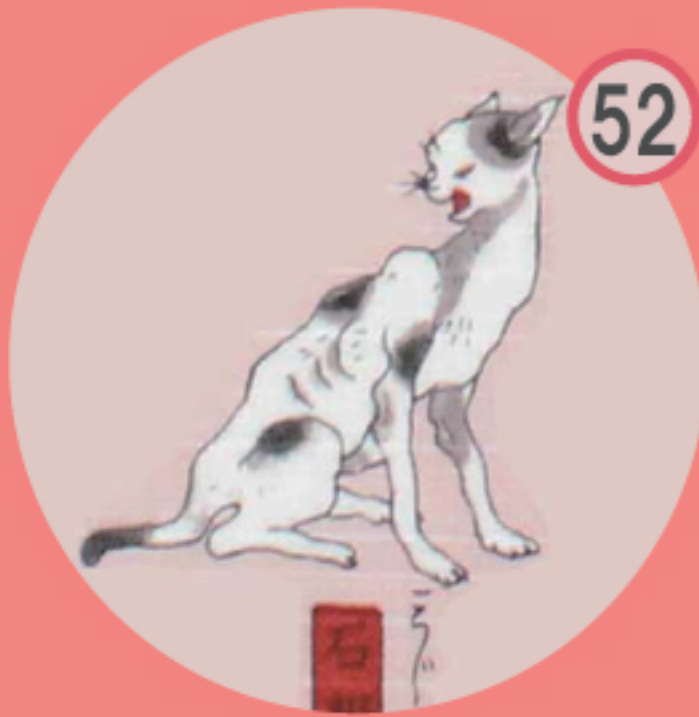
石薬師(いしやくし)

→いちやアつき
(いちゃつく二匹の猫)



石部(いしべ)

→みじめ
(みじめに痩せた猫)



水口(みなぐち)

→みなぶち
(体中みんなブチ模様)



土山(つちやま)

→ぶちじゃま
(ブチ猫が邪魔をする)



坂の下(さかのした)

→あかのした
(赤い舌)



京(きょう)

→ぎやう(ネズミの悲鳴)



大津(おおつ)

→じょうず
(上手にネズミを扱う)



草津(くさつ)

→こたつ
(こたつの上で丸くなる)



「むす美」は「生す(むす)」+「美」を語源としたふるしきのブランドです。「むす美オンラインショップ」では、ふるしきの販売だけではなく、様々なサイズ・用途に合わせた包み方をたくさん紹介しています。

www.musubi-online.com